

教材・支援機器活用実践事例

【九九に困難さがある児童のための指導】

	実施年度	平成27年度
授業について	教科名等	自立活動
	単元・題材名	「九九との出会い」
	授業における教師のねらい	○数的事実(数の組合せ)を明示し、正確に九九唱ができる。 ○九九の意味、適用場面がわかり、文章題から正しく立式できる。
	授業における子どもの目標	○九九の絵、式、答え、文章題の各カードを正しくマッチングする。 ○正しく九九唱ができる。 ○既習の加減算との違いを、言葉や図を手がかりにイメージできる。
子どもについて	学校・学級・学年	通級による指導(学習障がい通級指導教室) 小学校 下学年
	対象の障がい	自閉症スペクトラム障がい
	授業形態	個別学習
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	○数量概念や聴覚的ワーキングメモリー(作業記憶)が弱い。 ○九九の学習に期待と不安がある。 ○視覚的な情報への強さがある。
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	○「特別支援教育はじめのいっぽ」(学研プラス出版、2008) *杉本陽子先生の実践参考 九九カード ○自作ワークシート 
	活用のねらい	○九九は加減算とは異なる新しいイメージの計算なので、カードによる学習で視覚的に情報を整理でき、児童にとって分かり易い。 ○九九唱は聴覚的な記憶である。数字を書きこんだ唱えカードにより、音と数字の組み合わせを視覚的に意識でき、聴覚的ワーキングメモリーの弱さを補うことができる。 ○絵題で演算イメージをしっかりと持たせることにより、文章題での演算決定の手がかりになり、スムーズに立式できるようになる。
授業における支援・教材の配慮事項		○九九の学習の前に、5とび数えや2とび数え、ワーキングメモリーの向上の課題に取り組み、学習の土台作りをする。 ○絵と答えカードのマッチングから始め、式カードや実態により唱えカード、文章題カードを付加していく。 ○授業の終わりは式と答えカードのみ残し、九九唱を確認する。 ○音韻認識の弱い児童に関しては、「2、4、7、1、8」の区別が後で難しくなり九九唱で混乱する原因となるので、「よん」、「なな」で練習するよう、本人、家族、在籍校担任に連絡する。 ○唱えカードを貸し出し、宿題とすることで、一貫した九九唱の練習ができるようにする。
子どもの変容や評価		○2学期終わりまでに、在籍学級の合格テストに全ての段で合格し、3年生になってからも混乱なくかけ算を使うことができている。 ○文章題中のどの数字に着目して立式すればよいのかが分かり、正しく答えを導くことができている。